

澤岡先生より

「活動で紡いできたつながりが不安を抱える誰かの大きなお守りやチカラになっている」これを改めて感じたのが、グループワークで聴こえてきたみなさんからの声でした。

暑中お見舞いのハガキを出したり、皆勤賞をお渡ししたり、オンラインでの開催にチャレンジしたり、歩行困難な方が通ってくるのをサポートされたり…。これらはつながりを途切れさせない、通い続けるための素晴らしい工夫といえます。

加えて、使った道具を各自で洗濯、必ず一回は発信・発言してもらおう、体操復帰できないかたにも会場予約を手伝ってもらおうなどなど…。個々の事情に配慮して、色々な役割、関り方ができるように工夫されているのも、実はスゴイことだったりします。

確かに、コロナ禍で高齢化に加えて参加する人数が減ってしまったというグループも少なくありません。ですが、先の見えない不安や身体の不調を抱えつつも、それでも来たいという人がこんなにもいたとも言い換えられるのではないのでしょうか。

活動の場から姿がみえなくなりつつある人、これまで関りを持ちたがらなかった人（特に男性）に輪を拡げていくために、新たな知恵やチカラが必要になってくると思われまます。

まずは活動のお仲間に「どう思う？」「どんな活動にしていきたい？」をなんどもツブヤイテみてください。仲間から聴こえてきたツブヤキを、今度はケアプラザや区役所、社会福祉協議会、町内会などにもツブヤイテください。気になった他のグループの見学に行ってみるのもおすすめです。少しずつの変化ですが、数年後にあなたの活動がさらに魅力的な居場所になっているはずです！